

武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会
第 1 回委員会 議事要旨（案）

日時：平成 25 年 9 月 2 日（月）午後 7:00～9:00

場所：かたらいの道市民スペース 会議室

1. 開会

（1）委嘱状交付

－市長より委嘱状交付

（2）市長挨拶

- ・ 夜間に関わらず、武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会にご出席いただき、また、委嘱についてもご承諾いただき、感謝申し上げます。
- ・ 委員の任期が来年の 12 月までと非常に長いですが、ぜひ皆様のお力添えをいただきたい。
- ・ 本日は竜巻が発生し、埼玉・千葉で被害が出たようである。武蔵野市では、昨日 9 月 1 日に総合防災訓練を実施した。大変暑い中での訓練だったため、訓練に参加した皆さんが熱中症にならないことを願っていた。防災訓練では様々なメニューがあり、地域連携訓練の会場となった境南地域全域では、様々な訓練に取り組めたのではないかと思います。災害時は、1 か所だけではなく複数の所で被害を受けるため、様々な場所で同時進行で対応せざるを得ない。今回の訓練は 1 つのモデルとなったのではないかと思います。
- ・ その中で、コミュニティセンター（以下、コミセン）を使った訓練もあった。従来の地域防災計画ではコミセンの役割について記載がなかったが、今回の地域防災計画の見直しにより、コミセンを災害時地域支え合いステーションとし、様々な地域の課題を解決する拠点として位置づけている。今後、できる範囲での取り組みをお願いしたい。
- ・ 昨日の訓練を通じて感じたのは地域の皆さんのネットワークがなければ、いざというときには様々なことに取り組めないことである。このため、コミュニティには地域の防災対策の 1 つとしても大きく期待している。
- ・ 武蔵野市は戦後から地域の町内会や自治会があまり形成されてこなかった。明確な数字はないが、現在はおよそ 8,000～9,000 世帯が町内会・自治会に加入していると思われる。したがって加入率は 10 数パーセントに過ぎない。
- ・ 町内会・自治会に代わって 40 年前からコミュニティ構想を基に、地域のコミュニティ協議会（以下、協議会）がコミセンを運営して、コミュニティ形成が図られてきた。これは、広く緩いつながりであり、評価すべきコミュニティ形成であるが、それだけではすべてが完結できないというのは現状ではないかと思う。コミセンだけではなく、防災や福祉の組織等といかに連携していくかが、これからの武蔵野市のコミュニティを考える視点の 1 つと思う。
- ・ これからのコミュニティのあり方については様々な状況を皆さんにご理解をいただきながら、本委員会の中で議論していただきたい。われわれからもコミュニティに対す

る期待が多々あるが、皆さんも自主運営の中でたくさんの取り組みを行っており感じることもあると思う。そういった点をもとに、これから武蔵野市が目指すコミュニティのあり方を広く議論していただきたい。

- ・ コミュニティ構想ができて既に 40 年を過ぎており、当然社会状況が変わっている。これからのコミュニティを考えるうえでは、40 年前のコミュニティ構想を原点にするというより、もう一度コミュニティ構想を作っても良いのではないかと思う。この場でコミュニティ構想を作るということではないかもしれないが、それに向けての様々な議論や提言をいただきたい。また、皆さんの提言が新コミュニティ構想のスタートになればと思う。1 年以上に渡るが、どうぞよろしくお願いします。

(3) 委員自己紹介

■委員

- ・ 公募で参加している。
- ・ 4 年前に会社を退職した。40 年今のところに住んでいるが、地域とのつながりをほとんど持たずに来たので、まるで砂漠の中に放り込まれたような感覚に陥った。地域とつながっていくためには、地域の中に自分から入っていかなければならないと感じたので、まずは市報で募集していたファシリテーター養成講座に応募し、講座に参加してきた。
- ・ 地域コミュニティは、コミュニティセンター（以下、コミセン）がその核になっていると思っていたが、現実はどうもそうでもないようだ。そこで、養成講座でできた仲間たちとの活動目標の一つにコミセンの活用を掲げた。こうしたなか、吉祥寺南町コミセンのニュースで運営委員の募集をしていたので、参加を決意した。
- ・ 一年間、運営委員として参画してきたなかで、いろいろと見えてきたことがある。そこで、この 4 月から一つ一つの課題に取り組むため、コミセン活動活性化推進会議（コミ活）というものを立ち上げた。運営委員の皆さんにも協力して頂き、勝手連のような形でコミセンを変えていこうという動きに目下取り組んでいる。
- ・ 新しいコミュニティ構想を立ち上げるというのは、自分の中でも問題意識のあるちょうど良い時期なので、参加させて頂いた。

■委員

- ・ 名前は岐阜県の中津川に多いものである。東京都内だと、青梅の方に成木川という地名がある。その地域は、どうやら岐阜の中津川から江戸城の築城の頃に移住してきた人が多く、それが地名になったのではないかとの、地元の住職の話であった。
- ・ 昭和 46 年に境 4 丁目に引っ越しをしてきたが、3 年前までは自宅と武蔵境駅の往復で、特に地元との関係はなかった。
- ・ 3 年前に地元のかたと知り合い、防災推進員に参加すると共に、武蔵境自主防災会の立ち上げにも参加している。
- ・ 昨年度、武蔵野市からアンケート調査が届いたことをきっかけとして、昨年度のグループインタビューなどにも参加させて頂いた。銀行に 20 年勤務し、その後コンサルタントとして 10 年、現在も自宅でコンサルタント業を開業している。あらためて地元

も貢献したいという思いもあり、参加させて頂いた。

■委員

- ・ 地域社協（福祉の会）に関わっており、1月の大半の時間がボランティア関係の仕事でつぶれてしまっている。そろそろ自分の時間を作りたいと思っていたところであったが、今回の会議についての出席の依頼を頂いた。
- ・ 最後のご奉公だと思ってがんばりたいと思っている。

■委員

- ・ 今までコミセンに関わってきたことを振り返り、新しいコミュニティのあり方を考えるヒントを見つけられればと思っています。

■委員

- ・ 桜堤コミセンの会長と、コミュニティ研究連絡会の会長をしている。
- ・ これまで、コミセンの人たちが運営をがんばってきたこと自体が大きな財産だと思う。一方で、コミセンの中からだけではなく、市民や行政、さらには市議会など様々な視点からコミセンについて見ていくことが必要だろうと思う。

■委員

- ・ 社会学を専門としている。
- ・ 武蔵野市のコミュニティ施策は、社会学分野では非常に有名であり、その内容に関われるのは光栄なことだと思っている。
- ・ 武蔵野市のコミュニティに関しては、以前コミュニティ評価委員会の委員長として関わったことがある。その際、武蔵野市は、コミュニティにもいろんな課題が出ているが、コミュニティに関わっている方や市民が、自らで対応し解決していく力もあるし、同時にその責任も有しているのだということを強く感じた。
- ・ 今回の検討でも様々な問題が出てくると思うが、必ず新しい道を市民の皆さんが見いだしていけるのだろうと期待している。そこに専門家としてのお手伝いできればよいと思っている。

■委員

- ・ 専門は社会学である。中でも高齢者の方に関する調査を専門としており、社会参加や看取りなどについて研究している。
- ・ この委員会としての役割は、社会学の専門家としての立場もちろんであるが、この会議メンバーの中で圧倒的に若手であるとのことを自覚して、若い世代としての発言もできればと考えている。コミセンは若い世代の利用が少ないとも聞いており、仕事をしながらどのようにコミュニティに関わるかといった観点からも、若い世代を積極的に巻き込めるような仕組みを考えていきたい。

■委員

- ・ マンション管理士をしている。
- ・ 武蔵野市に 7 年前に転居してきた。その際、マンションの公共部分で全く挨拶がない状況に驚いた。その中でマンションはどのような組織が管理をしているのかということに興味を持ち、マンション管理士の試験を受けた。
- ・ マンションの管理組合の役員が回ってきたときに、それをきっかけにして、コミュニティに興味を持ち始めた。このようなきっかけというのがコミュニティにとっては非常に重要だと感じている。
- ・ 武蔵野市民は集合住宅に住んでいる人が 7 割を占めている。この会場で年に 3 回程度の相談会をしているが、様々な相談が多く、コミュニティという観点では非常に遅れていると思っている。
- ・ こうした中、今後マンション同士の交流を広げていきたいと考えている。マンション管理士だけではとても対応できないので、皆さんのお力もお借りしたい。
- ・ 民生委員からの誘いもあり、大野田地域防災の会（自主防災組織）に関わっている。

■委員

- ・ 青少年問題協議会の大野田地区の委員長をしている。青少年の居場所がなくその問題に取り組んでいる。
- ・ けやきコミセンについては設立当初から運営委員をしている。自主三原則というのが崩れ始めており、コミセンも過渡期であり、考え直さないといけない時期であろうと思っている。検討委員会には期待している。

■委員

- ・ 八幡町と関前でグループ保育室を含めた子育て支援施設を運営している。もともと保育士であったので、子どもが安心できるためには親が安心できることが、親が安心できるためには地域が安心できることが、重要と考えて立ち上げたものである。そのため、規模は小さいが、就労の有無にかかわらず、子育て中の親が立ち寄り、つながっていける場所でありたいと思っている。
- ・ 子どもにとって、最初に会った大人たちに愛されているということを感じることは、子どもの人格形成上非常に重要である。そこに、地域の大人が関わっていることが重要だと考えている。
- ・ 理想の形は、子どもが成長しても、育った地域でたくさんの大人に愛されたということを出し、つらいときもがんばれる、曲がりそうになった道をまっすぐにできるということだと思っている。
- ・ 八幡町コミセンが新しくなった。子どものためのスペースができ、高齢者の方にとっても新しい出会いが生まれ、それが、20代30代の方とのつながりを生み出すと言うことであった。

(4) 事務局紹介

- －事務局・コンサルタント自己紹介
- －傍聴者自己紹介

(5) 正副委員長選出

- －委員長に玉野委員を互選で選出
- －副委員長に笹野委員を委員長が指名

2. 議事

(1) 委員会の運営について

- －事務局より資料1～3について説明

(質疑等なく委員により同意)

(2) 武蔵野市のコミュニティ施策について

- －事務局より資料4について説明

(質疑)

■委員長

- ・ コミュニティ地区とコミセンやコミュニティ協議会（以下、協議会）との対応関係がわからない。
- ・ 協議会はコミセンの数と一致しているのか。

■事務局

- ・ コミセンは分館があるが、基本的には協議会の数と同じである。

■委員長

- ・ コミュニティ地区では、複数の協議会が含まれる場合があるのか。

■事務局

- ・ 結果としてはそうになっている。

■委員長

- ・ コミュニティ地区が設けられた経緯を説明していただきたい。

■事務局

- ・ 参考資料「武蔵野市コミュニティ構想」の5ページをご覧いただきたい。
- ・ 従来の町内会組織の場合、地域の居住者が自動的に町内会の構成員となっている。一方、コミュニティ地区はこうした閉鎖的な空間とは対照的である。当時、コミュニティ地区はコミュニティ構想の理念に基づき、柔軟性のある設定方法でゾーンとして8ヶ所定められた。このため、境界部分が明示されていない。コミュニティ地区はその後11地区に再編されたが、従来の考え方を踏襲したため、境界部分が明確ではない。コミュニティ地区の境界線については議論されなかった可能性がある。

- ・ それに対して、コミセンを中心に活動する協議会はエリアが明確である。ただし、一部重複している地域が存在する。

■委員長

- ・ 基本的にはコミセンと協議会が単位と考えたほうが良いか。

■事務局

- ・ そういうとらえ方のほうがわかりやすいと考える。ただし、コミュニティ地区という概念はコミュニティ構想上現在でも残っている。

■委員長

- ・ コミュニティ構想が策定された当時はコミュニティ地区ごとにコミセンを整備していく予定だったということか。

■委員

- ・ 当時、行政がコミセンの整備計画を持っていたと思われるが、次第に市民の要望に応じてコミセンを整備する形になったと考える。けやきコミセンも、市民活動によってコミセンが整備されたと聞いている。

■委員長

- ・ コミュニティ構想ではコミュニティ地区が存在するが、市民からみれば、コミセンと協議会が一つの単位であり、それぞれの協議会が活動している。こういうふうに考えたほうが良いと理解した。
- ・ 同じコミュニティ地区の中にある協議会は互いに連携をとることがあるか。

■事務局

- ・ 協議会がコミュニティ地区を意識した連携はとっていないと思われる。

■副委員長

- ・ コミュニティ構想ではコミュニティ地区の概念があるが、多くの人は意識していないと思われる。ただし、それをどのようにとらえるかについては今後の検討課題であろう。
- ・ コミュニティ構想の地区割りと、コミセンの地区割り、地域で活動する各団体の地区割りの整合性が取れれば、市民の地域感覚が形成されると考える。

■委員

- ・ 協議会や団体間の連絡を取りやすくする仕組みが必要である。

■委員

- ・ 先ほどの説明でも、協議会の運営委員は人口の約1%との発言があったが、この運営

委員は明確に管理されているのか。

- ・ また、運営委員の任期は自動的に更新されているか。

■副委員長

- ・ 明確に管理されている。
- ・ また、任期については、基本的に1年単位での更新である。毎年4月に各コミセンで住民総会が開催されており、そこで承認されれば1年間更新できる。

■委員

- ・ 運営委員として登録すれば自動更新されることはないことを理解した。

■委員

- ・ 問題意識を整理してから議論した方が、より効果的ではないか。この検討委員会の議論の方向性を明確にしたほうが良いと考える。

■委員長

- ・ 今の指摘については、資料5と資料6の内容であるため、その説明を踏まえて議論したい。

(3) これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査について

(4) 検討の論点と委員会の進め方について

—事務局より資料5、6について説明

(質疑)

■委員長

- ・ 事務局で整理していただいた論点や調査結果を参考にしながら、各委員が考える重要なポイントや論点などについて、率直な意見を出していただきたい。

■委員

- ・ 資料6の「論点4：地域コミュニティと目的別コミュニティとの連携」について伺いたい。
- ・ 武蔵野市地域防災計画(平成25年修正)ではコミセンの位置づけが明記されているが、それを念頭に置いて議論すべきか。

■事務局

- ・ 地域防災計画ではコミセンを「災害時地域支え合いステーション」とすることが明記されている。これについては、現在協議会の代表者会議でコミセンごとの具体的な対応について議論している。
- ・ コミュニティのエリア設定と福祉・防災のエリア設定が異なるため、各団体の連携が取りにくい状況にある。こうした状況をどう改善するかについて、本検討委員会で議

論していただきたい。

■委員長

- ・ 武蔵野市では、コミュニティが自主三原則に基づいて形成され、行政がコミュニティの活動やエリア設定などに干渉しない姿勢をとってきた経緯がある。しかし防災分野のように、こうした従来のやり方ではコミュニティがうまく機能しなくなっている現状もある。
- ・ 本検討委員会では、自主三原則とは本来どのようなものであったのかということから考え直すことも行いながら、行政が全く関与しないこれまでのやり方ではうまく機能しておらず、一定のコミュニティのエリアや役割についての関与が必要となっている中で、あらためてコミュニティの位置づけや課題等について議論し、これからの地域コミュニティのあり方を考えていただきたい。

■副委員長

- ・ 協議会に期待することではなく、幅広くコミュニティに求めていることを検討したうえで、協議会だけではなく、広く市民や各団体の役割分担や連携のあり方について考えていきたい。

■委員

- ・ 市もコミセンや協議会に予算をつけている以上、防災分野における取り組みのように、一定の関与が必要になるのではないかと。自主三原則を重視することはもちろん重要であるが、自由さばかりが目につく点もあり、バランスが必要であろう。福祉関係の取り組みにおいて、高齢者の居場所としてコミセンを活用してはどうか、との意見を研連委員長にしたことがあるが、自主三原則があるから難しい、と言われたこともあった。
- ・ 地域に数多くの団体があるが、連携が取れていない。かつて地域社協でネットワーク構築を目指したことがあるが、維持できなかった。コミセンが地域の団体をまとめる役割を果たすことが大事だと思う。

■委員

- ・ 様々な取り組みを行う上で、予算が非常に重要となる。より実効性のある提案をする観点からも、あらかじめ予算に関する情報を知っておくことが有用であると思うので、コミセンや協議会の過年度予算の推移に関するデータと、もし可能であれば今後の予算についての考え方について提示いただきたい。

■事務局

- ・ 過年度予算の推移の説明資料を用意し、次回ご報告する。

■委員

- ・ 基礎調査の結果について、協議会とコミセンに期待される役割として、市民・団体ア

アンケートからは気軽につながることでできる場や活動場所が最も高い一方で、グループインタビューからは単なる貸し部屋になることへの不満があるとの調査結果になっている。

- ・ 市民はコミセンが貸し部屋で良いと思っているのに、協議会はあえて単なる貸し部屋とならないように頑張る必要性がわからない。従来、コミセンが単なる貸し部屋となることに不満の意見が多かったが、平成 24 年度「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査」の結果を見ると、市民がそういうふうに思っていないようにとらえられる。コミセンのあり方について、協議会と市民との考え方のギャップを感じる。
- ・ 「論点 2：コミュニティ協議会の役割の検討」について、協議会では運営委員の中で複数の学校区にまたがる協議会では運営が難しいという意見があったため、協議会のエリア設定について議論できれば良い。

■副委員長

- ・ 平成 23 年度に武蔵野市市民活動促進基本計画（仮称）策定委員会が開催されたが、その際、NPO 団体を対象にアンケート調査を行った。調査結果によれば、6 割程度の団体がコミセンを活動場所として利用していたという。したがって、団体はコミセンを有効な場所として認識していると思う。
- ・ グループインタビューでは、コミセンに期待する意見がより多く出たのではないかと思う。

■事務局

- ・ アンケートにおける「つながりを作るための場」とは単なる貸し部屋ということではない。コミセンに行けば人と出会えてつながるような個人レベルでの出会いの場をコミセンに期待しているが、現状ではコミセンが貸し部屋になっていることに不満があるということだと思われる。

■委員長

- ・ 通常、施設では利用団体の懇談会が設置されており、利用団体は利用方法に対して意見が出せるのが一般的である。
- ・ 武蔵野市の場合、協議会がコミセンを運営しており必ずしもそこに利用団体が関与していない場合もあり、加えて利用者懇談会の設置がなく、しかも協議会の内容や設置意図が理解されていないため、利用者が意見を出すルートがなくなってしまったという問題が武蔵野市独特の問題なのだろうと思う。
- ・ 協議会は、自主参加で自分たちで運営できるということが十分理解されることが重要であり、本検討委員会では協議会の意義と役割を、市民に理解していただくことも含めて、改めて定義したほうが良いと考える。

■委員

- ・ コミセンでは利用者懇談会を毎年開催するが、そこで出た意見はコミセンの利用に関

する不満ばかりで、つながりづくりの役割を果たしてほしいというような、我々がより期待するような意見は出されずに残念に思っている。

■委員

- ・ 2年前に関わるまでは、コミセンの建物は知っていたが協議会のメンバーは市の職員であるような誤解があった。
- ・ 実際に関わってから日々感じていることであるが、協議会と地域の間で大きなギャップがあるように思う。協議会も中で時には喧嘩までしながら地域のことを考えているのに、それが地域に理解されていないし、地域の団体や個人もそれぞれ頑張っているのに課題が解決できない部分があり、何とかならないのかという思いが協議会に向けられているように感じる。
- ・ 協議会も地域団体も地域をよくしたいという終着点は同じであるのだから、もっと相互理解ができないだろうかと思う。
- ・ 0123 はらっぱの例に見られるように、大きな箱物をつくるなどわかりやすい施策を打ち出すことが、武蔵野市の行政施策の特徴だと思える。こうした施設があることはもちろん大事であるのだが、行政がそうしたわかりやすく対応してくれることが、かえって自分たちがやらないといけないという一人ずつの気持ちを薄れさせることもあるのではないだろうか。それが、とにかく協議会がやればいいという意識につながっていないだろうか。
- ・ まずは、コミセンの中身がより身近なものになっていけば良いかと考える。例えば学校教育の中でコミュニティのあり方について考え、コミセンの一日運営委員として発表するといったような、教育の中に取り組みすることも方法として考えられるのではないか。

■副委員長

- ・ コミセンに関わっている人たちは一生懸命である。そういうことが市民の方に理解されていないのが原点として有るのではないかと思う。
- ・ コミセンの地域づくりの役割等について、これまで、個々のコミセンでは多少情報発信を行っているが十分ではなく、ましてや市全体で発信する機会はなかった。また、新しく転入された方に対しても全くコミセンに関する説明を行っていない。したがって新しく転入した市民がコミセンの存在すら知らない。
- ・ 新しく転居してきた方とお話しした際に、市長とのタウンミーティングではじめて知ったという方もいた。こうした現状を踏まえると、市全体で共有して、情報発信する必要があると思う。

■委員

- ・ 今の副委員長の発言にもあったが、コミセンの運営に携わっている方は本当に一生懸命である。しかしそれが逆にコミセンを私物化しているのではないか、特定の人でやっているのではないかという誤解を招いている部分もあり、空回りしているところもある。

- ・ もっと運営委員に多くの人に関与することが、その解決には必要と考えている。いま、若い母親が参加しているが、そういった人たちから無償で良いのかという意見も出ている。吉祥寺南町コミセンでは、ワンコインボランティアという有償ボランティアも活用しているが、こうしたことも必要なのではないかと思う。
- ・ どういう形で地域の人々の参画を促しながら一緒にコミュニティ活動を行うかというのが今後の大きな課題であると思う。

■委員長

- ・ 武蔵野市民になったときに、武蔵野市が自主三原則に基づいてコミュニティづくりをしてきた伝統ある都市であるということを市が広報してこなかったのではないか。おそらく、自主三原則といわれている中で、市がそうしたことを広報すること自体も問題であるという躊躇があったのではないか。
- ・ また、地域を代表する協議会なら、地域の団体が参加することが自然であるのだが、これも自主三原則のなかで、そうした組織構成を必須とすることはできなかったため、地域の代表制をコミセンに明確に保持させることは難しかったのではないか。それが、結果的に、好きな人が好きにやっているのだから、そのような組織には関わりたくないという誤解を招いた面もあるのではないかと思う。
- ・ 自主三原則は重視すべきであるし、最終的には各地区の協議会が運営形態について決定することが重要であると思うが、この検討委員会の中では、協議会が市民の代表組織であることを理解してもらえるためには、どのような組織形態がよいかについて検討し、提言していければよいのではないかと思う。

3. その他

■事務局

- ・ 次回は9月29日（日）にコミセンの視察を行う。当日の移動はマイクロバスを利用する予定である。当日都合がつかない方には別途報告で替えさせていただきたい。詳細は改めてご連絡させていただく。
- ・ 第2回検討委員会は10月15日（火）午後6時30分より開催する。
- ・ 第3回検討委員会は11月19日（火）午後6時30分より開催する。

4. 閉会

以上